

百日咳に注意しましょう!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 3	3	百日咳	↗ 1	0
RSウイルス感染症	↗ 4	2	ヘルパンギーナ	↗ 158	176
咽頭結膜熱	↘ 8	15	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 43	41
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 41	55	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 319	387	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 36	20
水痘	↘ 19	22	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 392	399	無菌性髄膜炎	↗ 4	0
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 21	27	マイコプラズマ肺炎	↘ 3	4
突発性発しん	↘ 37	50	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

**報告が多い感染症**

- 手足口病
- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ

**大きな流行が発生又は継続しつつある地域**

感染性胃腸炎 : 菊池  
 手足口病 : 菊池、熊本、天草、山鹿、水俣、宇城、八代、有明  
 伝染性紅斑 : 人吉、菊池  
 ヘルパンギーナ : 菊池、宇城、天草  
 流行性耳下腺炎 : 人吉

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	1	2	2	12	54	2	157	1	6		44	3		32		3	3		
山鹿保健所					37		16		2		2	1	*	*		0	0		
菊池保健所			5	9	80	3	87	6	6	1	51	1				0	0		
阿蘇保健所				2	4		1					1	*	*		0	0		
御船保健所					8		12	1				1	*	*		0	0		
八代保健所				2	37	1	14	4	4		5	3				0	0		
水俣保健所		2				1	14		2		5		*	*		0	0		
人吉保健所				1	10	2	13	4	2		10	21	*	*		1	0		
有明保健所	2			6	61	1	12		10		9	11		4		0	0		
宇城保健所				3	22		28	4	4		19		*	*		0	0		
天草保健所			1	6	6	9	38	1	1		13	1				0	0		
計	3	4	8	41	319	19	392	21	37	1	158	43	0	36	0	4	3	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	4	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	8	0	0	6	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	0	0	0	0	2	5	5	12	6	2	1	7	0	1						
感染性胃腸炎	319	4	24	58	37	41	26	19	16	13	11	17	28	4	21						
水痘	19	0	0	5	4	2	1	4	1	0	0	1	1	0	0						
手足口病	392	1	43	128	65	60	34	26	12	7	3	3	3	0	7						
伝染性紅斑	21	0	0	1	1	4	2	4	1	2	3	2	1	0	0						
突発性発しん	37	3	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	158	1	22	56	20	25	12	9	5	4	0	2	1	0	1						
流行性耳下腺炎	43	0	0	2	2	9	9	12	2	4	1	1	0	0	1						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	36	0	0	2	0	1	4	1	3	1	0	1	1	1	3	7	0	5	2	4	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	4	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

百日咳に注意しましょう

今週は、菊池から百日咳の報告が1件ありました。百日咳とは、百日咳菌という細菌に感染しておこる急性の気道感染症です。特有のけいれん性の咳発作を特徴とし、いずれの年齢でもかかりますが、特に新生児や乳幼児では重症化しやすく、無呼吸発作や肺炎、脳症などをおこして命にかかわる場合があります。百日咳は、一般的に発熱がありません、咳のみの方もいます。長引く咳の特に壮年の方で、該当する場合は早めにかかりつけ医にご相談ください。治療開始が遅れるとお薬の効果がない場合もあります。生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんから胎盤をとおして移行抗体という免疫をもらっていますが、残念ながら百日咳菌に対してはお母さんからの移行抗体が期待できません。ですので、生後3ヵ月になったらできるだけ早く、百日咳ワクチンを含む四種混合ワクチンを開始されることをお勧めします。

百日咳とは

【感染経路】

主に、百日咳にかかった人の咳やくしゃみなどに含まれる菌を吸い込むことにより感染します(飛沫感染)。

【治療】

抗生物質の投与を行います。

☆☆予防のポイント☆☆

1. 定期予防接種：百日咳のワクチンは四種混合ワクチンとして、生後3ヵ月から接種できます。標準的な接種スケジュールは以下のとおりです。
  - ・1期初回 : 生後3月から生後12月に、20日以上の間隔を置いて3回接種
  - ・1期追加 : 1期初回終了後12ヵ月から18ヵ月の間隔を置いて1回接種
2. 長引く咳を認める年長児や成人は、新生児や乳幼児に近づかないように配慮し、早めに医療機関を受診しましょう。
3. 咳エチケット：咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーなどで口と鼻をおおい、人にかからないようにしましょう。

